

みぞくちミニ新聞

発行元
みぞくち

購読無料
毎月発行

もうすぐ3月 就労の皆さんは

きょろぶろきろはろじろめろた

2月も残すところ数日を
迎え、就労グループの皆さんは
気が付き始めた。

所長を見つけると「今年

もアレあるん？」「あれじやが！」「ボーナス」と思
わせぶりに聞く人。「ボ
ナスいつくれるん」とスト
レートな人。「なんぼある
ん？」と気の早い人。どの
方もその話になるとニヤリ
と表情が緩んでいる。
そりやそうですわ。一年

の集大成「ボーナス」です
から。毎月の工賃とは桁が
違うのは皆さんよくご存
じ。

しかし、所長は頭を悩ま
せている。今年はコロナ禍
例年の作業量ではない。3
月末にどのくらい余剰金
があるか不安がある。当然、
ボーナスの支給は出来る。
問題はその金額。皆さんの
1年の努力を数字で示すよ
うなもの。たくさんあるに

こした事は無い。ただ、い
かに所長が力強く優しく
て頼りがいがあつても、こ
れだけは所長の力でどうこ
うなるものではない。

早速、概算を始める。出
来るだけ正確に。さあどう
でしょう？現時点では皆さ
んに喜んでいただける？金
額は支給できるかな？！
ということにしておこう。
結果は次回みぞくちミニ新
聞にて公表予定。

今がチャレンジャーの時

2月に入りもち作業は一
段落。公園の落ち葉も落ち
切り、慌ただしさも過ぎた。
就労グループの皆さんはつ
かの間のゆったりした作業
を行っている。普段から皆
さんマイペースだから、こ

れまでとさほど変わらない
かもしれない。だが、スタ
ッフの気持ちにはゆとりが
ある。繁忙期にはできなか
ったことにチャレンジする
機会。新たな製品の模索、
作業工程の再考、利用者の
皆さんがいかに楽しく自身
の能力を最大限に発揮でき

るか等、考えどころは満載
である。就労スタッフのみ
んなは、何をどう考えてい
るだろう？この時期の取組
が次年度の成果を決めるか
もしれない。さあ、利用者
の皆さんもスタッフも就労
グループ全体でチャレンジ
だ！

お昼の休憩に思う

昼食後の皆さんの様子を
お伝えしよう。昼食を終え
て歯磨きをすると、概ね30
分ほどの休憩時間がある。
大体皆さん毎日同じ過ごし
方をされている。いつもの
席に座り多目的ルームでテ
レビを見る人。スタッフを
捉まえて話に花を咲かす
人。午後からの活動を気に
する人。静かな部屋で好き
なパズルをする人。特にす
ることなくあちらこちらと
歩き回る人。好みの本を眺
めている人。等々。午後か
らの活動までゆったり身体
と気持ちを休めている。皆

さんと話するにはとても
良い時間。所長もいろんな
人に声を掛ける。「今日の
ご飯どうだった？」「おい
しかったなー！」「今日も
全部食べた？」「帰りにコ
ンビニ寄るの？」「キリン
は英語で言うの？」「今日
は誰が迎えに来てくれる？
」「午後は創作活動何を作
るの？」「公園の落ち葉は
どのくらい？」等々。話が
尽きる事は無い。

ちよつと一息

最近の仕事はインターネ
ットがないと、なかなか捗
らない。というより、ネッ
トの便利さに慣れすぎてい
るのか？。利用者の皆さん
への支援で、直接ネットを
使うことは、YOUTUBE
Eでカラオケやダンスを探
す事くらい。それ以外はマ
ンパワーに尽きる。とは言
え、支援方法では何かいい

案がないかとネット検索を
する。また、創作活動のい
ろはも探せば様々なものが
ネットで調べられる。

だが、これらが使えない
となつたらどうだろう。便
利と不便は背中合わせ。い
ろんなことが起こり得る。
一つのやり方に執着せず、
二つ三つと考えを巡らせて
おかないと、いざという
き対応できない。ある意味
危機管理でもある。